

人々の様々な感情をクリエイティブが後押しするようお手伝いをしていきたい。

グラフィックデザイナー/ビジュアルアーティスト  
Laura Rodriguez Flores さん



Laura Rodriguez Flores さん  
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ（2008年度:研修生）

=====  
日本とメキシコで実施中の「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」は、2021年に研修開始50周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症の影響により2021年はオンラインにて研修を実施しましたが、2022年に再び来日研修が実現しました。両国の研修生はこれまでに4,800名を超え、参加者の皆さんは研修後も国内外で活躍し、両国の交流を支える大きな力となっています。

今回はその中のひとり、浜松を拠点にアーティスト活動する Laura さんにお話を伺いました。  
(今回のインタビューは英語で行い、翻訳した上で記事を作成しています)

### ○Laura さんと日本のつながり

物心ついた時には日本という国に何となく惹かれていて、メキシコシティにある「日墨学院<sup>[ii]</sup>」に入学し、日本語や日本の文化を勉強しました。いつか日本に行ってみたくは思っていたのですが、日本は「宇宙旅行するほど遠い存在」の国でした。

その後、メキシコの大学でグラフィックデザインを学び、デザイン事務所で働きつつ、アーティストとして地元の職人たちと企画展の開催や様々な展覧会に参加して自分の作品を発表していました。

### ○日本とのご縁

憧れの日本に初めての来たのは、2007年です。旅は東京滞在の1週間のスケジュールでしたが、毎日が睡眠不足になるくらい楽しい時間でした。

帰国後、仕事の案件でアジアの調べ物をしていた時に偶然、日墨研修の情報をインターネットで発見し、応募したところ研修生となり、2008年に2度目の来日が実現しました。研修先の京都工芸繊維大学「日本のデザインと伝統技術」コースで学び伝統の技に魅了されたことが、今の私のデザインに大きな影響を与えています。同研修を終了後帰国前に、その後夫となるフランス人デザイナーの「運命の人」と出会いました。これも「縁」ですね。



京都工芸繊維大学の山本教授と Laura さん

## ○浜松での暮らし

現在は浜松で暮らし、グラフィックデザインやイラストを描きつつジュエリーデザイナーとして作品を販売しています。また、マインドドローイングという「感覚と複数の素材や技法を探求する実験的な絵画技法」の講師として、市内の美術館や博物館でワークショップを開催しています。そして「さわさわひろば」という、日本人と外国人の親を支援するセンターで活動もしています。

日墨研修の期間はホームシックになりましたが、今はここ（日本）に家族、友人、私の活動の場が出来、自分の居場所があります。

## ○日本の好きなおとこ

日本の安全面、清潔さ、秩序や静けさが一番好きです。日本は安全に暮らせるので子どもがいる家庭にとってはとても良い環境だと思います。日本の「互いに支え合い、助け合って暮らしている」という姿勢が一番印象的で、日本の文化や人々との関係性に存在する「尊敬と信頼と信用」が好きです。

## ○作品に影響を与えているもの

日本の様々な風景が私のアーティストとしての感性を磨いてくれます。特に交通標識、アーバンデザイン等の模様は面白く、着物のデザインの美しさに惹かれ、日本語の文章や文字も私にとっては絵や形に見えます。書から強いインスピレーションを受けて作品を作りました。日本の生活の中で、目に飛び込んでくるコト・モノが私の感性に訴えかけてきて、それを表現しています。

また普段、私はメキシコのラジオを聞いています。その時間「日本は昼でメキシコは夜、浜松は雨でメキシコは晴れ」というように当たり前だけど、私の存在している空間とラジオの向こうでは違うことが起きます。その不思議な感覚を感じながら、スケッチするのが楽しみのひとつとなっています。創造力が生み出す時間になっていると感じます。

神秘的で象徴的なものに惹かれ、それを理解することに興味があり、私の芸術表現に影響を与えていると感じており、私は今も学び、変化し続けています。

## ○日墨研修に参加して得たこと

プログラム内容が素晴らしく、特に日本文化について学ぶことができました。例えば、異文化の中に置かれた自分と向き合った時、「もっとうすればいい、こんな姿勢がある」という気づきや両国を比較した時の「自国の文化の良さ」の発見が出来たことは、仕事の上でも個人的にも大きな学びとなりました。そして、今も連絡を取り合う帰国研修員という仲間の存在がとても大きいです。



書で表現した Laura さんの作品



JICA 東京国際センター前で

## ○今後の JICA 及び日墨研修への期待すること

日本で暮らしたい、働きたいと思う人たちがたくさんいるけど情報が足りないので、例えば高校など教育機関の特別授業として、日墨研修について知ることのできる時間（帰国研修員の声などの発信や日本からのオンライン講演等）があると非常に有意義で、将来に向けてイメージしながら来日を目指すモチベーションにつながるかもしれません。

また、今回のように研修後の活動をオンライン上で紹介することは、日墨研修への理解が深まっていくので良いと思います。

## ○これからのチャレンジについて

2022 年 12 月から 2023 年 3 月まで駐日メキシコ大使館でのオンライン・ギャラリーにおいて「アニマル・ミュージカルの展覧会を予定しています。

他には、刑務所や老人ホーム、孤児院など、弱い立場の人がいる場所でも、私のマインドドローイング教室を開催するなど、いつか「母親と子ども向けの絵本」を出版することが私の夢です。



<sup>i</sup> 両国の青年をお互いに留学させ、両国間の相互理解と友好親善を増進することを目的に、日墨研修生・学生等交流計画（日墨交流計画）として1971年に開始。毎年、両国から100名ずつの青年が留学（源氏アは50名）。2010年事業名称が「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」に変更。

<sup>ii</sup> メキシコシティにある日本人学校。1977年に開校し、生徒数は1000名を超える。幼稚園から高校まであり、メキシコ国立自治大学の教育課程に準拠したメキシココースと日本の文科省の教育課程に準拠した日本コース（中学校まで）がある。